

その他の糖尿病薬 フォーミュラリ

その他の経口糖尿病薬

スルホニルウレア剤 (SU)

推奨薬：グリメピリド、グリクラジド

- ・低血糖リスク大＝高齢者は避ける
- ・腎機能低下例で**低血糖リスク増**
- ・高度腎障害で**禁忌**
- ・重篤な肝障害で**禁忌**

速効型インスリン分泌促進剤
(グリニド)推奨薬：レパグリニド、ミチグリニド、
ナテグリニド

- ・低血糖リスク中＝高齢者は避ける
- ・腎機能低下例で**低血糖リスク増**
- ・食後高血糖改善＝食直前内服
- ・ α グルコシダーゼ阻害剤との合剤あり

 α グルコシダーゼ阻害剤

推奨薬：ボグリボース、ミグリトール

- ・食後高血糖改善＝食直前内服
- ・内服初期に消化器症状の副作用
- ・グリニドとの合剤あり

ビグアナイド剤

推奨薬：メトホルミン

- ・腎機能低下例で**減量要**
- ・高度腎障害で**禁忌**
- ・心不全で**禁忌**
- ・重篤な肝障害で**禁忌**
- ・DPP4阻害剤/チアゾリジンとの合剤あり

チアゾリジン薬

推奨薬：ピオグリタゾン

- ・高度腎障害で**禁忌**
- ・心不全で**禁忌**
- ・重篤な肝障害で**禁忌**
- ・発癌リスク、骨折リスク増加の可能性
- ・DPP4阻害剤/ビグアナイドとの合剤あり

ミトコンドリア機能調整薬

推奨薬：イメグリミン

- ・腎機能低下例で**非推奨**
- ・重篤な肝障害に対する臨床試験なし

スルホニルウレア剤（SU）

推奨度

グリメピリド>グリクラジド

- ・ 薬価はグリクラジドが安い
- ・ インスリン分泌作用 グリメピリド<グリクラジド
- ・ 血糖降下作用 グリメピリド≒グリクラジド
- ・ グリメピリドは臍外作用がありインスリン抵抗性患者には有用

経済性ではグリクラジド優位だが、安全性（低血糖リスク）を加味しグリメピリドを第一推奨とした。

成分名	販売名	先発品 後発品	規格	薬価 (円)	院内	院外	用法・用量		1日 最大用量	血中半減 期(hr)
グリメピリド	アマリール錠	先発品	1mg	10.8		●	0.5~4mg	分1~2	6mg	1.5
			3mg	16.6		●				
	グリメピリド錠	後発品	0.5mg	10.5	●	●				
			1mg	10.8	●	●				
			3mg	10.8		●				
グリクラジド	グリミクロンHA錠	後発品	20mg	6.3		●	40~120mg	分1~2	160mg	12.3
	グリミクロン錠	後発品	40mg	7.8	●	●				

速効性インスリン促進薬（グリニド）

推奨度

レパグリニド＞ミチグリニド＞ナテグリニド

- ・ 薬価はレパグリニド＜ミチグリニド＜ナテグリニド
- ・ HbA1c低下作用 レパグリニド＞ミチグリニド＞ナテグリニド
- ・ ナテグリニドには肝臓への直接作用（中性脂肪蓄積抑制）
- ・ ナテグリニドのみ重篤な腎機能障害に禁忌

経済性・有効性でレパグリニドを第一推奨（SUほど低血糖リスクは少ない）安全面でナテグリニドを第三推奨とした。

成分名	販売名	先発品 後発品	規格	薬価 (円)	院内	院外	用法・用量		1日 最大用量	血中半減期 (hr)
ミチグリニドカルシウム水和物	グルファストOD錠	先発品	5mg	10.8		●	15mg～30mg	分3	60mg	1.2
			10mg	16.9		●				
	ミチグリニドCa・OD錠	後発品	5mg	6.3		●				
			10mg	7.0	●	●				
ナテグリニド	ナテグリニド錠	後発品	30mg	10.8		●	180～270mg	分3	360mg	1.1～1.3
			90mg	14.9		●				
レパグリニド	レパグリニド錠	後発品	0.25mg	6.6	●	●	0.75～1.5mg	分3	3mg	0.8
			0.5mg	10.8		●				

αグルコシダーゼ阻害薬

推奨度

ボグリボース>ミグリトール

- ・ 薬価はボグリボースが安い
- ・ 使い分けを提示しているGLはない
- ・ 食後血糖降下作用　ミグリトール>ボグリボース
(ミグリトールは一部吸収されることが確認されている。他剤は吸収されない。)
- ・ 消化器系副作用頻度　ミグリトール>ボグリボース（初期）

使い分ける指標がとくにない。

経済性を考慮しボグリボースを第一推奨とした。

成分名	販売名	先発品 後発品	規格	薬価 (円)	院内	院外	用法・用量		1日 最大用量	血中半減期 (hr)
ボグリボース	ベイスンOD錠	先発品	0.3mg	12.9		●	0.6~0.9mg	分3	0.9mg	-
	ボグリボースOD錠	後発品	0.3mg	10.8	●	●				
ミグリトール	セイブルOD錠 (※普通錠もあり)	先発品	50mg	17.5		●	150~225mg	分3	225mg	2

ビグアナイド薬

推奨薬

メトホルミン

同一薬効の薬なし。

成分名	販売名	先発品・ 後発品	規格	薬価 (円)	院内	院外	用法・用量		1日 最大用量	血中半減期 (hr)
メトホルミン塩酸塩	メトグルコ錠	先発品☆	250mg	10.8	●	●	500～ 1500mg	分2～3	2250mg	2.9
		先発品☆	500mg	10.8		●				
	メトホルミン塩酸塩錠 MT	後発品★	250mg	10.8		●				
		後発品★	500mg	10.8		●				

チアゾリジン薬

推奨薬

ピオグリタゾン

同一薬効の薬なし。

成分名	販売名	先発品・ 後発品	規格	薬価 (円)	院内	院外	用法・用量		1日 最大用量	血中半減期 (hr)
ピオグリタゾン塩酸塩	アクトス錠	先発品	15m g	16.3		●	15~30mg	分1	MAX 45mg	5.4
		先発品	30m g	29.9		●				
	ピオグリタゾン錠	後発品	15m g	10.8	●	●				

ミトコンドリア機能調整薬

推奨薬

イメグリミン

同一薬効の薬なし。

成分名	販売名	先発品・後発品	規格	薬価 (円)	院内	院外	用法・用量		1日 最大用量	血中半減期 (hr)
イメグリミン塩酸塩	ツイミーグ錠	先発品 (後発無し)	500mg	32.5		●	2000mg	分2	2000mg	12

Ver.	改訂年月	内容
Ver.1.0	2025年11月	初版
Ver.1.1	2026年03月	薬価改訂を反映
Ver.2.0	2026年04月	ホームページ公開用にあわせてレイアウトを変更

参考文献

1. 各種添付文書
2. 2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム（第2版）糖尿病66.10.715-733,2023
3. 糖尿病標準診療マニュアル2023
4. 続・違いがわかる 同種同効薬
5. Memy H Hassan. *et.al.* Effects of metformin plus gliclazide versus metformin plus glimepiride on cardiovascular risk factors in patients with diabetes mellitus. *Pak. J. Pharm. Sci.* **2015**. Sep;28(5):1723-1730.
6. Ahmed F Algendy. *et.al.* Increased Frequency of Severe Hypoglycemia with the Modified-Release Gliclazide Compared to Glimepiride in Diabetic Older Adults; Propensity Score-Adjusted Analysis. *Diabetes Metab Syndr Obes.* **2022**. 15:1563-1575.
7. Ismail T. *et.al.* Comparative study of effect of alpha glucosidase inhibitors-miglitol, acarbose and voglibose on postprandial hyperglycemia and glycosylated hemoglobin in type-2 diabetes mellitus. *International journal of pharma and bio sciences.* **2012**.3(3):337-343.
8. Julio R. *et.al.* Repaglinide Versus Nateglinide Monotherapy:A randomized, multicenter study. *Diabetes Care.* **2004**. 27(6):1265-1270.
9. Sugihara H. *et al.* Comparison of three α -glucosidase inhibitors for glycemic control and bodyweight reduction in Japanese patients with obese type 2 diabetes. *J Diabetes Investig.***2014** Mar23;5(2):206-212.